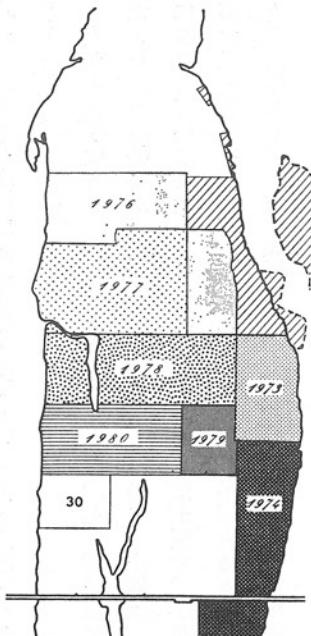


1981年出土の木簡



草戸千軒町遺跡 第30次調査区位置図

| | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 所在地 | 広島県福山市草戸町 |
| 2 | 調査期間 | 第三〇次調査 一九八一年（昭56）七月～一九八二年（昭57）六月 |
| 3 | 発掘機関 | 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 |
| 4 | 調査担当者 | 松下正司 |
| 5 | 遺跡の種類 | 集落跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 平安～江戸時代 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 第三〇次調査区は中州中央部西端の昨年度実施した第一二九次調査区の南にあたり、東西約三六m×南北三〇mの約一〇八〇m ² である。 |

第三〇次調査区は中州中央部西端の昨年度実施した第二九次調査区の南にあたり、東西約三六m×南北三〇mの約一〇八〇m²である。

遺跡の年代 平安～江戸時代
遺跡及び木簡出土遺構の概要

3 遺跡の種類 集落跡

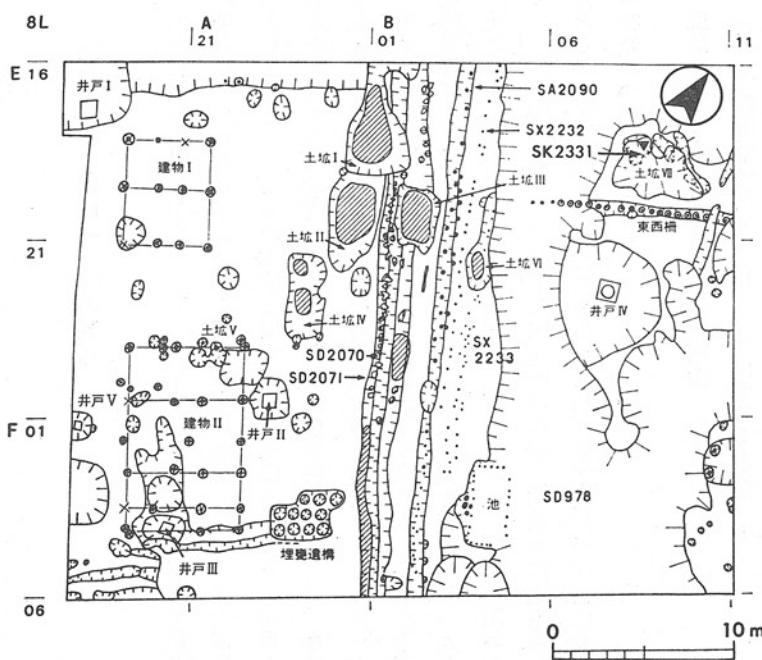
4 3
発掘機関 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
調査担当者 松下正司

二年（昭57）六月

所在地 広島県福山市草戸町
開業年月 第三〇〇〇年三月三日

広島・草戸千軒町遺跡

今回の調査区では、草戸の町割を区画する柵囲いの外部の様相が明らかになるものと期待していた。調査の結果、東部は幅五〇mにわたって現代の溝SD九七八で削平され、わずかに遺構面が残存していたにすぎないが、他の部分では良好な状況で残存していた。



草戸千軒町遺跡第30次調査遺構（上層）配置図

どがある。
検出した主な遺構には柵や建物・溝・井戸・池・土壙・埋甕遺構などがある。

墨書木札頃は6月一三三一土廣六
6月二〇七一講下層で検出

たSD二四四〇溝から断片各一点が出土している。土壤は、東端部に残存していた島状の高まりの北部で検出した土壤で、東西二m×南北二・五mを測る。出土した遺物は少ないが、大体室町時代中頃と考えられる。一方、溝は南北約二〇m×東西約一・二mを測り、鎌倉時代と考えられる。

8 木簡の叙事・内容

(1) $\boxed{\square} \rightarrow \boxed{\square}$
(2) $\rightarrow \boxed{\square}$
(152) \times (12) \times 9 = 1977

9 関係文献

小田原昭嗣
「草戸千軒町遺跡第30次調査略報」

(調査研究ニュース『草戸千軒』№106)

（志田原重人）

りも古代木簡に対する中世木簡の特質を考えるまとまつた資料として貴重である。この木簡の正式報告書が本年三月広島県草戸千軒町遺跡調査研究所から刊行された。報告書は第五次調査から一九七八年第二六次調査までに出土した三千八百点余のうち断片・削屑を除く二六三点を収載する。総説では遺跡の概要、木簡の出土遺構などとともに、第二回木簡学会で報告された中世木簡の形態と記載内容の特質について論じている。

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編

十軒町遺跡研究資料一 草戸千軒一木簡一一

(A四版 本文六〇頁 図版六〇葉) 頒価四千円 (送料込)

△申込先△福山市花園町一ノ五ノ二 広島県草戸千軒町遺跡調査研

究所内 広島考古学研究会（振替口座 広島九一六九三）

『草戸千軒—木簡—』の刊行

74